

「第3回 空港運営のあり方に関する検討会」議事概要
～金融機関・PPP関係者及び海外LCCヒアリング～

日時：平成23年2月8日（火）

場所：国土交通省3号館11階特別会議室

発表者：三菱商事(株)：廣本裕一氏／(株)三井物産戦略研究所：美原 融氏／マッコーリー
キャピタル証券会社：舟橋信夫氏／エアアジアX： センティル・バラン氏

○発表内容及び主な質疑

廣本氏：「空港事業とインフラファンドの役割」

[発表概要]

三菱商事におけるインフラファンドへの投資について、実際にイギリスの複数空港へ投資していることや民間資金が担い手となっている欧州の空港運営の実態について紹介。

ファンドが空港を保有・運営することによって、経営戦略による付加価値を向上させ、最終的には空港で事業する航空会社、更には利用者への価値向上を生み出している実例を紹介。

美原氏：「空港の民委託や民営化の要件とは何か/公民の連携はどうあるべきか？」

[発表概要]

空港は投資対象となるが、しっかりとした制度、枠組みが前提であり、将来の我が国の空港全体のビジョンが重要であることを言及。

我が国の空港を取り巻く状況が変化し、空港整備から費用の透明化や将来の投資など空港経営の抜本的効率化が必要で、また、個別の空港は機能・役割から類型化し、その類型毎に最適な空港のあり方を考慮すべきと言及。

舟橋氏：「海外におけるインフラ投資」

[発表概要]

マッコーリーグループはインフラファンドの残高世界一。イギリスの地方空港で完全民営化後、価値向上への取り組みを行い旅客数が大幅に増加したブリストル空港の実例を紹介。また、ビジネスとして日本の空港の投資には興味があり、一般論としてインフラファンドの投資の条件について、①当該国の投資家の需要、②標準化されたコンセッション契約、③投資案件が豊富か、などと言及。

センティル・バラン：「LCCから見た世界の空港」

[発表概要]

エアアジアXから見た世界の空港について、世界中のハブ空港で成功したものは、全て民間運営であり、国有のものはない。ハブ空港の成功には、競合・競争があるのも特徴で成田も羽田の国際化により競争が起きた。空港がパートナーとなりインセンティブを与えてくれることにより安心してビジネスが展開できる。などと発表。